

甲斐市立玉幡小学校 学校関係者評価書

令和7年2月18日（火）

甲斐市立玉幡小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和7年2月7日（金）午後2時50分から3時50分

会 場：甲斐市立玉幡小学校 家庭科室

参加者：学校運営協議会委員：三井 敏夫 ・志村 俊光 ・小山田 美由紀

P T A代表：岡 浩之 ・星 愛 ・小林 涼

学校側：校長 花形 一満 ・教頭 城内 優子

教務主任 松橋 勝

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

1 全体の概要について

（1）教職員自己評価について

- 学校教育目標や学校経営について、全員の教職員が肯定的な意見であり、校長の経営方針に基づく学校教育活動がなされ、一定の成果をえることができていること。

（2）小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が87.6%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

（3）保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が91%以上であり、好意的な評価であること。

2 学校教育目標・学校経営について

- 教職員の意識のベクトルを同じ方向に合わせ、組織的、協働的に職務に当たるようにしていく。
- 常にPDCAを意識した教育活動を実施する。教育活動ごとに成果と課題を洗い出し、改善策を確認し、次の活動に生かしていくこと。
- 一人一人の児童のニーズに応じた合理的な配慮が学校体制で取り組めるように、教職員間の情報共有を確実にやっていくこと。

3 学校運営について

- 「危機管理マニュアル」を的確に活用できるように、教職員への周知や訓練を行い、学校事故を最小限に食い止めることができるようにしていくこと。
- 働き方改革の実効性を高め、教職員の意識改革を図り、教職員がゆとりをもって児童の指導にあたることができるようにしていくこと。

4 学習指導について

- 学年主任を中心に、「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」と「まとめ」の段階を意識して、授業づくりを行っていくこと。
- 宿題や自主学習の取組を通して、学校と家庭が両輪となって、児童の学力向上を推進していくことに加え、家庭学習の一環としても読書を推進する取組を行っていくこと。
- 情報モラル教育の推進と、保護者への啓発を継続していくこと。

5 生徒指導について

- 規範意識の涵養を目指し、頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、学校全体の自尊感情を育んでいくこと。
- 児童の問題行動については、早期発見に努め、組織的な対応ができるよう、S CやS S W、甲斐市子育て支援課、児童相談所と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていくこと。

6 地域との連携について

- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も、竜王中部公園セミナーハウス、その他地域関係団体と連携し、児童の学びを深めていくこと。
- 学校だよりや学校ホームページを通して、学校情報の発信に努めるとともに、P T A・学校運営協議会・関係者評価委員会での話し合いやアンケートにより保護者や地域の意見・要望を積極的に取り入れていくこと。

7 学校の特色に関して

- 児童会を中心とした子どもたち自身の自発的な取組と共に、旗振りの保護者、地域の見守りをしていただける方々への積極的な挨拶など、学校外でも挨拶ができるように、教職員の声かけや保護者・地域への呼びかけ等を行っていくこと。

8 創甲斐教育について

- 創甲斐教育の意義を全教職員で共有し、組織的・計画的に教育課程に位置づけ取り組んでいくこと。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- 不登校や家庭における読書量の低下など課題はあるものの、全体的に児童、保護者、教職員、いずれの回答も肯定的な評価が多く、保護者や地域と連携しながら、教職員が一丸となって教育活動に取り組んできたことがうかがえた。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- 学校を楽しみと思えない児童にも、しっかりと目を向け、少しでも学校が楽しいところであると思える教育活動を推進していくこと。
- PDCAサイクルの教育活動を継続し、改善点を次に生かす引継を行うこと。

II 学校運営について

- 学校事故防止を意識した「危機管理マニュアル」のさらなる見直しと、的確に活用できるような実践的な訓練を行って、有事に備えること。
- 働き方改革においては、教職員の意識改革を推進し、教職員がゆとりをもって児童の指導にあたることができるようにしていく。
- 教職員が自信をもって職務を遂行することが保護者や児童への安心感につながっていくため、教職員間の連携を密にし、協働体制で教育活動にあたること。

III 学習指導について

- 「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」の明確化と「めあて」の達成状況を図る「まとめ」の家庭も大切にしていくこと。
- 「がんばるカード」の取組など親子で明確な目標をもって家庭学習に取り組むことができるような工夫を取り入れて、家庭での親子読書の時間を確保していくこと。
- 情報モラルの推進と同時に、学校図書を中心とした読書推進活動（「家読」「ビブリオバトル」など）を行うこと。

IV 生徒指導について

- 多様な家庭環境に対応していく生徒指導を行うこと。保護者負担軽減等も考慮した学校行事や学用品整備を行うこと。

V 地域との連携について

- やはたいもづくりをはじめ、地域と連携した取組を継続すること。地域だけでなく、保護者にも積極的に協力を呼び掛けていくこと。

VI 学校の特色について

- 学校内だけでなく地域においてもあいさつが元気よくしっかりとできる児童を育成するために，保護者や地域の方に協力を呼び掛けていくこと。

3 今後の課題として確認されたこと

- 家庭での読書の時間や自主学習の時間の確保のための取組の推進
- P D C Aサイクルを大切にした教育活動の推進
- 危機管理マニュアルの見直しと確実な運用
- やまなしスタンダードに基づく指導を行い，主体的に学習に取り組む児童の育成
- 働き方改革を進め，児童が安心して相談できる体制づくり
- 特別支援，生徒指導に関して関係機関との連携
- 学校と地域の願いを紡いだ社会に開かれた教育課程の実現

※特記事項

- 特になし

以上